

## 審査の結果の要旨

氏名 ウィチエンプラディト ポンサン

本論文は、タイ・バンコク都の存在する宗教施設を対象に、現行の宗教施設と周辺地域の保全に関する制度とその課題を明らかにし、具体的な紛争の事例から、保全において地域コミュニティが果たすべき役割を明示し、今後の宗教施設と周辺地域との総合的な保全施策のあり方を論じ、ひろく現代の都市計画において宗教施設が担うべき役割やそのあり方について知見を得ることを目的としている。

論文は、研究の目的や論文の構成、用語の定義を述べる序論である第1章に続き、一般的な制度論を述べる第1部と具体的事例をもとに論じ、総括する第2部とから成っている。第1部はさらにテーマごとに3つの章に分かれ、第2部は3つのケーススタディを論じる3つの章とまとめにあたる2つの章、合計5つの章から成っている。

第1部の第2章は、主として気負う研究をレビューし、タイ社会において宗教施設の扱い、社会の中での位置づけの歴史を概観し、本論文が対象とする周辺地域の範囲を明確に画定している。

第3章では、宗教施設の保全の中でも主として行政組織が関連している部分を取りあげ、法制度の概要を中心に、宗教行政、文化財保護行政および都市計画行政における宗教施設の位置づけを示し、その課題を明らかにしている。

第4章は、行政と直接関連しない宗教組織と隣接コミュニティ間に見られる宗教施設の管理問題を取り上げ、仏教、イスラム教、キリスト教それぞれの仕組みを比較しつつ、課題を抽出している。とくに宗教施設の経済基盤と社会基盤との乖離、宗教組織側の地域文化の理解不足、管理運営組織の硬直化などの共通する問題点を指摘している。

第2部の第5章から第7章までは、仏教寺院に的を絞って、その境内開発（第5章）、境内に隣接する寺領地における開発（第6章）、隣接地における他主体による商業開発（第7章）のそれぞれの事例において、周辺の地域コミュニティとどのような紛争が惹起したかを詳細に跡づけ、その原因を考察している。その結果、空間整備の考え方の相違、モニュメント指定範囲が不明確であること、周辺コミュニティと宗教施設の協働の可能性、文化財保護と景観規制が不連続であること、商業地域内の宗教施設の不明確な扱いなどの点を詳しく指摘している。

第8章においては、これまでの3事例を横断的に考察し、寺院・隣接コミュニティ・行政の三者のあるべき関係を明らかにし、保全に関する課題の体系化をおこなっている。さ

らに、仏教寺院における紛争の特徴を空間的側面と社会的側面とに分けて分析し、最後に隣接コミュニティが有する社会的な役割の可能性を評価している。

第 9 章は全体を総括する章である。各章での小括をとりまとめ、全体的な提言として、現行制度の見直し、周辺地域での計画策定、管理運営の仕組みの強化の 3 点を詳細に論じている。

以上、本論文は、従来ほとんど論じられることのなかった現代都市計画における宗教施設の取扱い方、宗教施設そのものの在り方に関して、広い視野に立って、課題を系統的に整理し、宗教施設そのもののみならず、周辺コミュニティとの関係を視野に入れて仕組みを組み立てる必要性を論じ、制度改変の方向性を論じるというきわめて独創的で、時宜を得た論文として高く評価することができる。

よって本論文は博士（工学）の学位申請論文として合格と認められる。